

風邪に注意！



気温差が激しい季節の変わり目、風邪をひきやすいのは人も牛も同じです。

哺育舎で…育成牛舎で…『ゲホゲホッ』と咳は聞こえてきませんか？

牛が痩せてきて、毛がボサボサになって…からでは遅いのです。

肺炎も下痢と同じく、早期発見・早期治療が超重要です！！

そして牛群に蔓延する前に対策が必要です！

呼吸器病対策には様々な抗生剤が有効ですし、もちろんワクチン接種も大事ですが…
今回は『ドラクシン』という抗生剤についてご紹介しようと思います。



価格は 50ml で ¥15000

体重 100kg あたり 2.5ml を単回皮下注射します。

(ちなみに 2.5ml なら ¥750 です)

投与量が比較的少ないので、注射もしやすいですね！

では何故ドラクシンが良いのか😊

◇1回の投与で作用持続時間が長い

重篤な細菌性肺炎の原因となるパスツレラ・ムルトシダやヒストフィルス・ソムニには 15 日間、マンヘミア・ヘモリチカには 9 日間効果が持続します。

抗生剤治療により呼吸器症状が改善しても、肺組織がダメージから回復するには 7～10 日間必要です。

この期間中に牛は再感染のリスクがありますが、ドラクシンは作用持続時間が長いので、そのリスクのある期間まで 1 回の投与でカバーすることができます。

◇マイコプラズマにも効果あり！

ドラクシンはマイコプラズマ・ボビスにも 9 日間効果が持続します。

マイコプラズマは健康な子牛の気道にも常在しています。1 歳程度で免疫が成熟すれば自然に消失しますが、その前に何らかのストレスや栄養不足、環境要因などによって増殖し、肺炎や中耳炎などの原因となります。

◇消炎鎮痛剤『メタカム』の併用も重要

抗生物質だけでなく、炎症を抑え、熱を下げてくれる消炎鎮痛剤も一緒に投与するのが効果的です。

先月ご紹介した『メタカム』、下痢だけではなく肺炎にも是非使ってみてください。

ドラクシンは効果が長く続くので、場合によっては予防的に使用することもできます。

離乳時や群飼いにする時など、肺炎が多発する時期がはっきりしている場合は、そのタイミングで全頭にドラクシンを投与してしまうという方法もあります。

お悩みの場合は、ぜひ獣医師にご相談ください。